

無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究 (①無02-08-3/5)

目 的

風俗・慣習、民俗芸能、民俗技術など無形民俗文化財の現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等についての全国的調査を行い、その成果をデータベースとして構築する。さらに研究協議会の開催を通じて各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図り、具体的保護施策の実施に資する指針を作成し公表する。

成 果

1 無形民俗文化財の伝承・公開の実態調査

本年度は、無形民俗文化財としての民俗芸能の伝承実態の調査として、鹿児島県いちき串木野市大里で伝承されている「市来の七夕踊」の調査を行った。とくに、各地区から一人ずつが踊り手として参加する太鼓踊りの稽古の調査を通して、民俗芸能や祭礼を伝承する過程における社会関係のあり方に注目して調査を行った。また、埼玉県鶴ヶ島市脚折に伝わる民俗行事「脚折雨乞」について、とくに造り物の龍蛇の製作、その材料の収集等に注目して調査を行った。さらに、近年継続して行っている安房地方のみのご踊りについて、千葉県伝統文化伝承事業実行委員会の映像記録作成事業に協力して実地調査を行った。

公開の実態調査としては、関東、九州の各ブロック別民俗芸能大会、京の郷土芸能祭、秋篠音楽堂伝統芸能公演等の公開確認調査を実施した。

また、新たに保護の対象となった民俗技術に関する調査としては、三河地方の伝統的な花火の一種である「立物花火」について、愛知県新城市東新町を中心に、立物花火に関する技術と、伝承主体である「立物花火保存会」の実態調査を行った。

さらに、無形文化財・無形民俗文化財・文化財保存技術に関して作成された記録類の所在情報データベースを構築することを目指し、(財) 伝統文化活性化国民協会と協力して、全国の地方自治体にアンケート調査を実施し、データの整理と分析を行った。

2 無形民俗文化財研究協議会

日 時：2008（平成20）年11月20日（金）10：00～17：20

会 場：東京文化財研究所セミナー室

参加者：101名

テーマ：無形民俗文化財に関わるモノの保護

趣 旨：無形文化遺産部では、旧芸能部の時代から、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して民俗芸能の保護と継承について研究協議する会を開催してきた。平成18年度より対象を無形の民俗文化財一般に広げ、新たに「無形民俗文化財研究協議会」として開催している。第3回に当たる本年度は、「無形民俗文化財に関わるモノの保護」をテーマとして、祭礼や民俗芸能に使用される造り物・山車・舞台や、民俗技術に用いられる材料など、無形の民俗文化財の伝承に必要とされる有形物の保存・維持・管理・修復・活用といった点について、無形のわざの伝承と一体としての組織化を行ったり、地域の人々の幅広い参加を実現するなど、ユニークな取り組みをしている4件の事例の報告を行った。この報告をもとに、コメンテーターやフロア参加者も含めた全体的な協議を行い、多くの文化財行政担当者や研究者、伝承者の方々の意見を求めた。協議の成果は報告書として刊行した。

プログラム：

〔総合司会〕 俵木悟（東京文化財研究所無形文化遺産部）

10：30～10：40

挨拶：宮田繁幸（東京文化財研究所無形文化遺産部長）

①プロジェクト研究 Areal,4

- 10:40~10:45 趣旨説明：俵木悟（東京文化財研究所無形文化遺産部）
- 10:45~11:30 年中行事における飾り物継承の諸問題—七夕馬とツクリモノ—
服部比呂美（東京文化財研究所無形文化遺産部客員研究員）
- 11:30~12:15 西塩子の回り舞台の復活と活用 石井聖子（常陸大宮市歴史民俗資料館大宮館）
- 12:15~13:45 （昼食）
- 13:45~14:30 長浜曳山祭における曳山の保存と修復について
—祭りのなかで曳山を活かしつづける方途— 橋本章（長浜市長浜城歴史博物館）
- 14:30~15:15 江名子バンドリの製作技術の材料確保、保護するための取り組み
田中彰（高山市教育委員会事務局参事兼文化財課長）
保木隆（江名子バンドリ保存会代表）
- 15:15~15:30 （休憩）
- 15:30~17:20 総合討議
コメンテーター：小川直之（國學院大學文学部日本文学科教授）
前田俊一郎（文化庁伝統文化課民俗文化財部門調査官）
コーディネーター：俵木悟（東京文化財研究所無形文化遺産部）

発表件数 2件

- ・宮田繁幸「日本の無形文化遺産の保護と普及」 富川世界無形文化遺産EXPO国際学術会議 08.10.11
- ・俵木悟「日本の無形民俗文化財の映像記録事業」 韓国国立文化財研究所ワークショップ（韓国国立文化財研究所） 08.10.16

論文等掲載数 1件

- ・俵木悟「無形文化遺産の映像記録作成の意義と課題—無形の民俗文化財を中心に—」 『地域政策研究』 45 地方自治研究機構 pp.50-56 08.12

報告書刊行 1件

- ・『第3回無形民俗文化財研究協議会報告書—無形民俗文化財に関わるモノの保護—』 東京文化財研究所 09.3

研究組織

○宮田繁幸、俵木悟（以上、無形文化遺産部）、大島暁雄、服部比呂美（以上、客員研究員）